

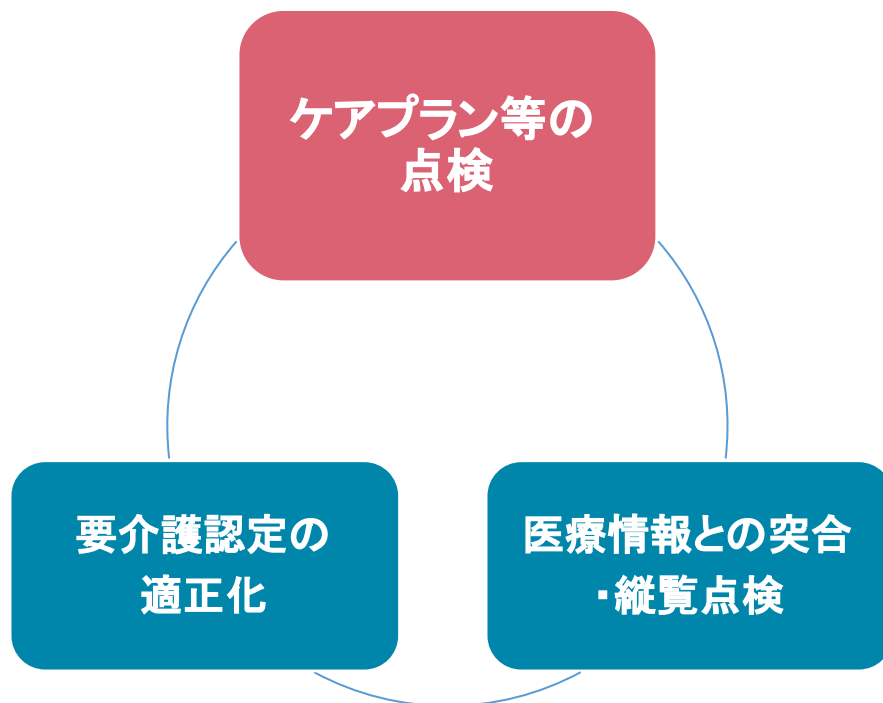
令和7年度

# 札幌市ケアプラン点検結果報告

札幌市 保健福祉局 高齢保健福祉部 介護保険課

# ケアプラン点検とは

- 保険者が行う介護給付の適正化事業として、「ケアプラン点検」が位置づけられています。
- 「ケアプラン点検」は主要3事業の一つです。



# ケアプラン点検の目的

- 作成されたケアプランがケアマネジメントのプロセスを踏まえた「**自立支援**」に資する適切なケアプランとなっているかを検証確認することで、介護支援専門員の「**気づき**」を促し、介護支援専門員の資質向上を図る。
- ケアプランの質の向上、利用者の状態の維持改善を図り、介護給付の適正化を推進する。

# ケアプラン点検の流れ

STEP1

- 介護保険課から事業所にケアプランの提出を依頼

STEP2

- 介護保険課と点検者(委託)による書類の事前点検

STEP3

- 事業所と点検者によるオンライン面談

STEP4

- 介護保険課から事業所にケアプラン点検実施結果通知書を送付

# 点検対象者と点検実績

## 点検対象者

---

### ■ 福祉用具貸与利用者のプラン

福祉用具貸与利用者のうち、以下の対象者を重点的に点検

- 「車いす」または「特殊寝台」を利用している軽度者(要介護1)
- 「車いす」を複数貸与している利用者(要介護1～5)
- 住宅型有料老人ホーム入居者またはサービス付き高齢者住宅入居者

## 点検実績

---

■ 点検数: 50件

■ 点検事業所数: 25件(各事業所2件)

# 提出書類

- チェックシート(自己点検シート)
- 利用者基本情報・課題分析に関する項目
- 課題分析表
- 居宅サービス計画書(第1表～第2表)
- 週間サービス計画書(第3表)
- サービス担当者会議の要点(照会の記録も含む)(第4表)
- 訪問系・通所系サービス、福祉用具貸与サービスを利用している場合は、それぞれのサービス計画書またはサービス内容の算定根拠の情報等、詳細が分かる書類
- 居宅介護支援経過(第5表)
- 評価表(モニタリング)
- サービス利用票(第6表)と利用票別表(第7表)

# 点検結果 (1)

## 課題分析 (アセスメント)

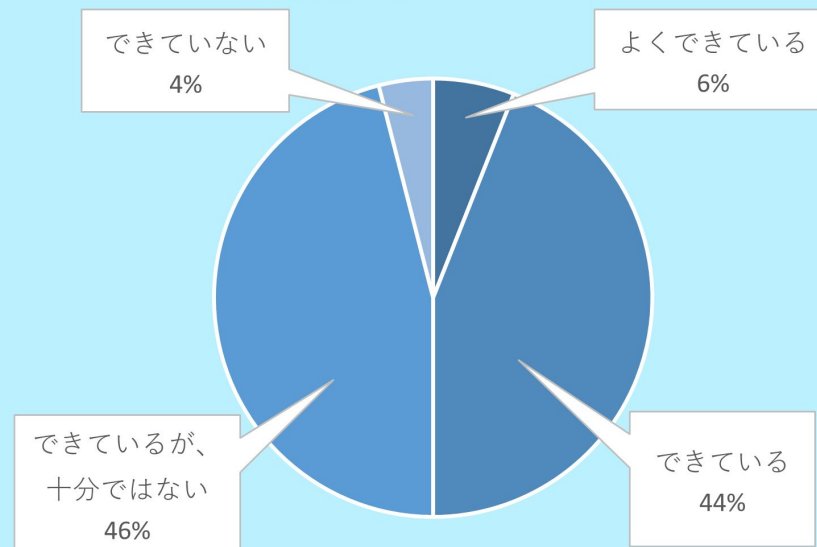
### 点検項目: 7項目

7項目の平均で50%が「よくできている」「できている」と評価。  
50%が「できているが、十分ではない」「できていない」と評価

### 点検者からのコメント

- 令和5年10月に発出された新たな課題分析項目について、**認識されていない方**がおられました。
- 多くのケアプランにおいて、生活上の困りごとが表面的な状況整理に留まっており、困りごとから**どのようにニーズを選定したのか**というケアマネジャーの思考過程が可視化されていない点が課題です。
- 病歴の和暦・西暦の混在、BMI(体格指数)・既往歴の記入漏れなど、**医学的情報の記載に不備**が散見されました。適切なケアの提供と多職種連携のため、**正確かつ漏れのない丁寧な記載の徹底**が必要です。

### 課題分析 (アセスメント)



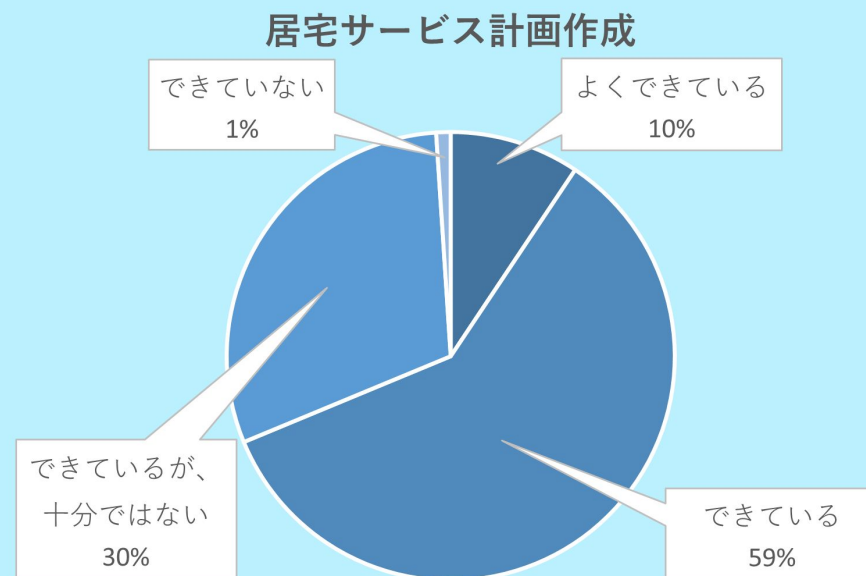
▲点検項目ごとに「よくできている」「できている」「できているが、十分ではない」「できていない」で評価した。次ページ以降も同様。

# 点検結果 (2)

## 居宅サービス計画作成

### 点検項目：24項目

24項目の平均で69%が「よくできている」「できている」と評価。  
31%が「できているが、十分ではない」「できていない」と評価。



### 点検者からのコメント

- 目標設定において、**抽象的で漠然とした表現を用いているケース**が多く見受けられました。単なる状態の維持を願う記述に留まらず、利用者の意欲や暮らしの変化に焦点を当てた、**実効性の高い目標設定**が求められます。
- **有料老人ホームに入居中のケース**については、ニーズや目標設定がサービスの**利用ありき**で設定されており、自立支援の視点が不足している傾向にありました。
- **福祉用具の導入にあたり**、その**必要性(根拠)**と選択した品目の**妥当性**についての記述が不足している事例が多く見受けられました。アセスメントに基づいた具体的な選定理由を記載し、**適正なサービス提供の根拠を明確に示すこと**が求められます。

# 点検結果 (3)

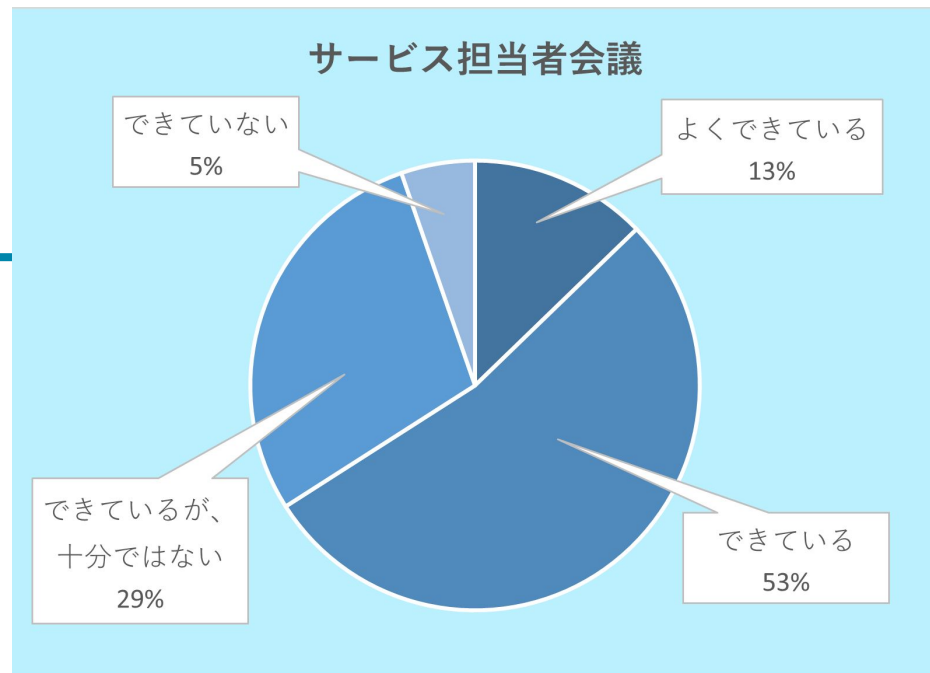
## サービス担当者会議

### 点検項目：8項目

8項目の平均で66%が「よくできている」「できている」と評価。  
34%が「できているが、十分ではない」「できていない」と評価。

### 点検者からのコメント

- 単に**利用状況を報告しあうだけの会議録**が散見されました。身体状況、悪化リスク、福祉用具の検証等、多角的な視点から協議すべき内容を**網羅的に検討する必要があります**。
- 会議録の記載が適切だったとしても、**主治医からの意見聴取および医療系サービス利用時における連携が不十分なケース**が見受けられました。
- サービス担当者会議において、ケアマネジャーが進行役として**参加者の発言を促し**、参加者の専門性を引き出す**高度な調整能力**が不可欠であり、**チームの合意形成を円滑に進める技術の研鑽**が望まれます。



# 点検結果 (4)

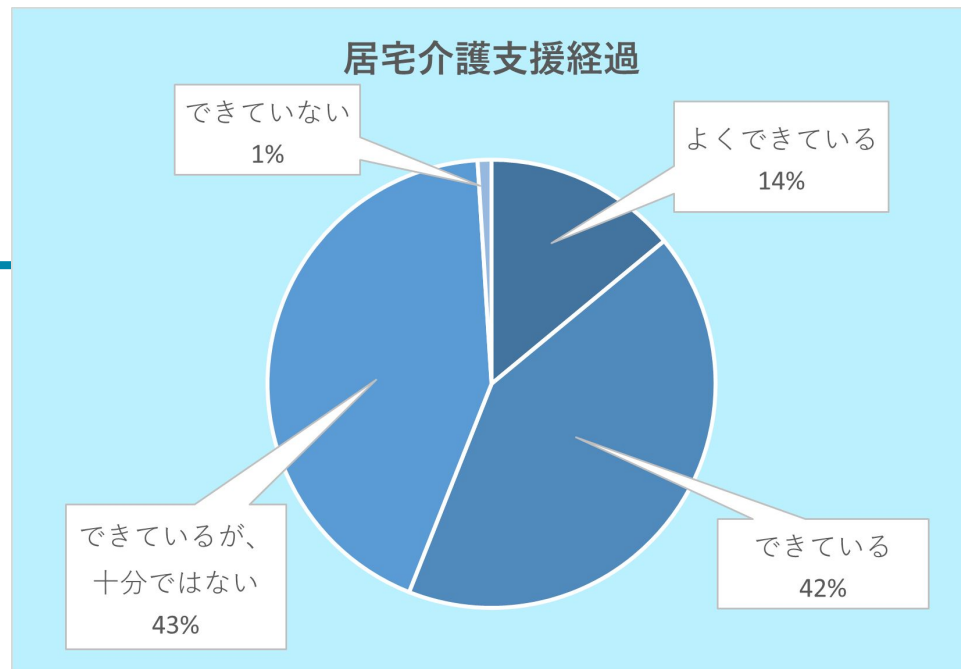
## 居宅介護支援経過

### 点検項目：3項目

3項目の平均で56%が「よくできている」「できている」と評価。  
44%が「できているが、十分ではない」「できていない」と評価。

### 点検者からのコメント

- 居宅介護支援経過の作成において、定型的な表現に留まらず、**5W1H(いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように)**を網羅した具体的かつ**客観的な記述の徹底**が求められます。
- 内容が充実している一方で、長文により要点が伝わりにくい事例も確認されました。情報の重要度に応じた適宜な改行や空行の活用等、**第三者が読解しやすい視認性の向上**を意識することが重要です。
- 記録は単なる業務の足跡ではなく、**適切な支援の根拠**であり、利用者保護や多職種連携を支えるために極めて重要です。「**誰のために、何のために記録を残すのか**」という原点を常に意識し、質の高い記録の追求が望まれます。



# 点検結果 (5)

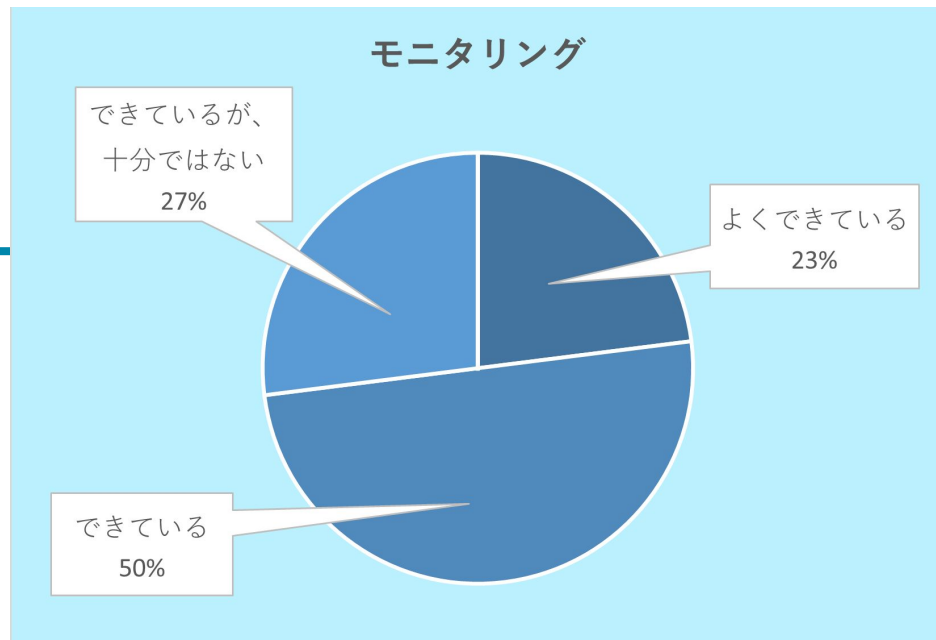
## モニタリング

### 点検項目：2項目

2項目の平均で73%が「よくできている」「できている」と評価。  
27%が「できているが、十分ではない」と評価。  
「できていない」は該当がなかった。

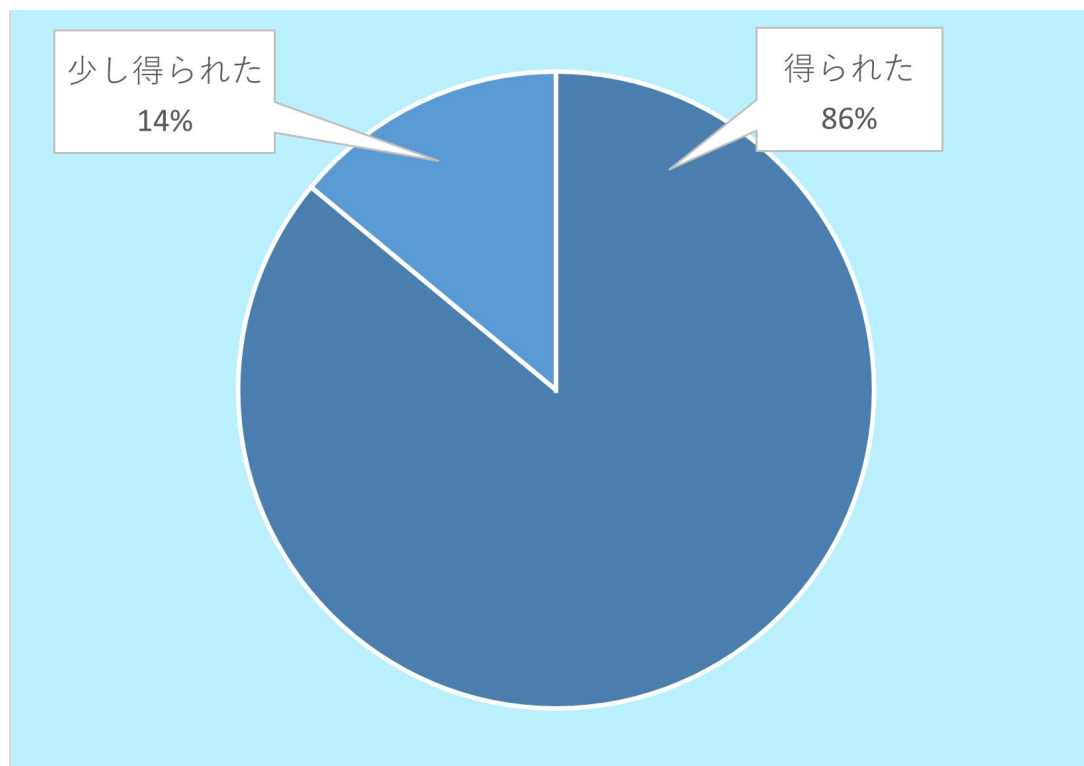
### 点検者からのコメント

- ・モニタリングシートによる記録はなされているものの、**前月の内容がそのまま複写されているケース**が見受けられました。適切なモニタリングの実施に欠ける恐れがあるため、改善が必要です。



# ケアプラン点検のアンケート (1)

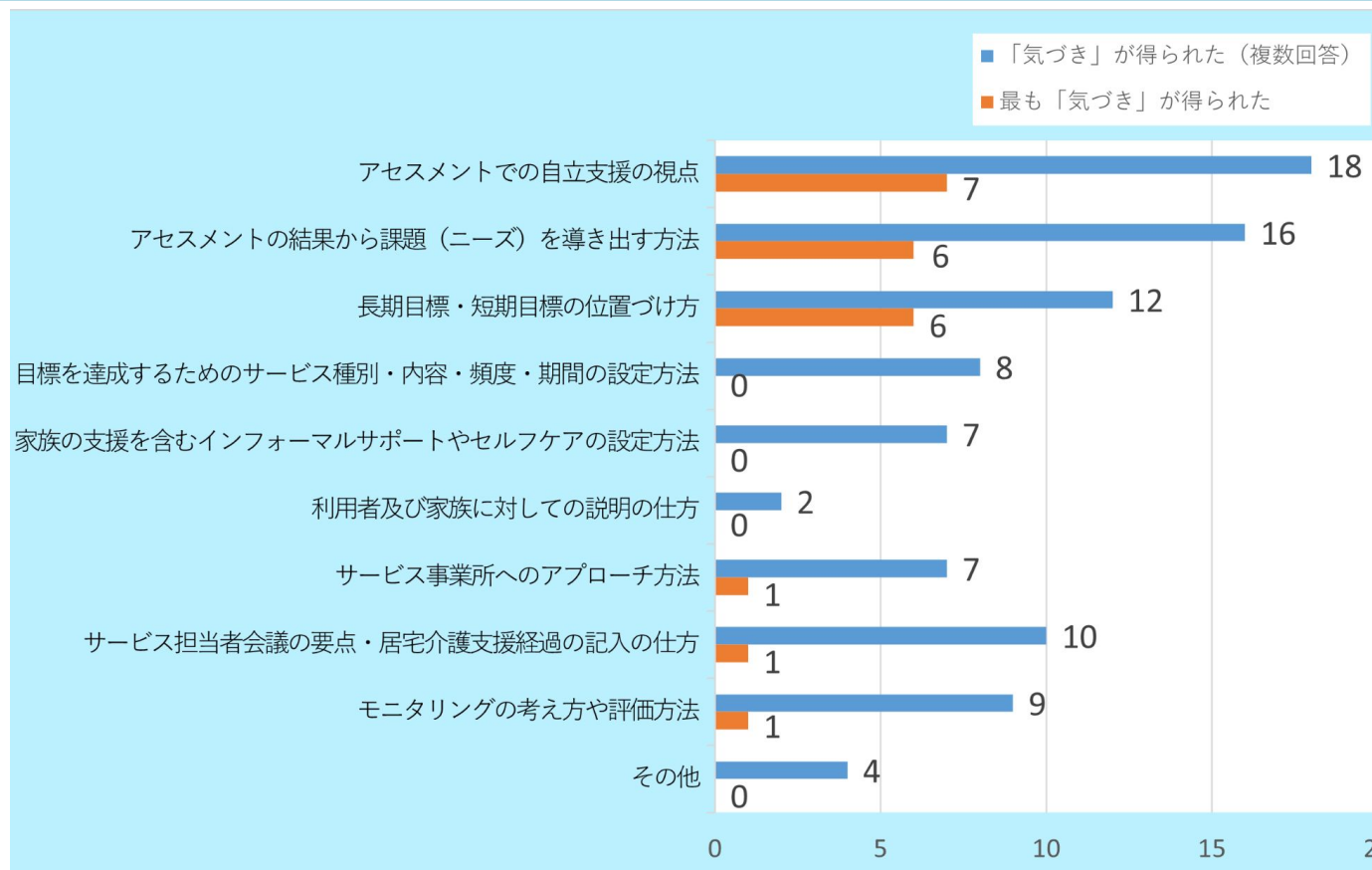
Q. ケアプラン点検を受けて、新たな「気づき」を得ることができたか



- アンケートに答えた介護支援専門員22人中、19人が「得られた」と回答。※「得られなかった」との回答はなかった。

# ケアプラン点検のアンケート (2)

## Q. どの分野で「気づき」を得ることができたか



- 「気づき」が得られた分野として、「アセスメントでの自立支援の視点(18件)」に次いで、「アセスメントの結果から課題(ニーズ)導き出す方法(16件)」が多かった。
- 最も「気づき」が得られた分野として、「アセスメントでの自立支援の視点(7件)」が多かった。

# ケアプラン点検のアンケート (3)

## Q. 具体的にどのような「気づき」があったか(一部抜粋)

- 支援がうまくいっていないと感じるケースについて、他の機関(提供事業所以外)の方とお話することにより「事業所との関わりにおける課題」と「それによりチームアプローチができていないこと」がより明確になりました。  
課題ではありますが、目標や方向性を統一し円滑なチームアプローチができれば支援も安定、変化時にもスムーズに対応できるとも感じましたので、全体で各機関の役割を確認・共有し、よりよいチーム形成ができるよう動いていければと思います。
- つい、サービスありきの内容となっていて、ご本人が出来る事、する事がすっかり抜けていた事に気が付きました。また、ご本人らしくのプランにするためには必要不可欠である事にも気が付きました。事業所の評価(モニタリング)が独特なタイプな事もあり、○、△、×等の評価が変になってしまうことにも気が付きました。チェックする事で気が付くことも多かったです。
- 書類作成や訪問、所属先の法人の業務などから支援記録やアセスメントの記載内容が最小限のポイントのみなっていることでベストな関りや意見交換を行っていることが十分に記載されていないのは良い取り組みをして関わっているのにもったいないと言われました。嬉しいご助言ではありましたが、やはり実際の業務を考えると仮に音声入力の機材があってもなかなか記録を充実させるのは厳しいなと言うジレンマを感じました。とはいえ、記録やアセスメントの記載を充実できたらと思います。